



耕畜連携と地産地消 を支援する取組

茨城県 石岡市
内外食品株式会社

石岡市について

石岡市は茨城県のほぼ中央に位置し、西に筑波山と東に霞ヶ浦とを有する平坦地にあります。

かつては国府が置かれ、常陸国の政治文化の中心地だったこともあり、市内には多くの歴史的遺産があり、醸造業が盛んで関東の灘と称され酒どころとしても知られています。

また、「茨城県フラワーパーク」、「常陸風土記の丘」などのテーマパークがあり、温泉施設である「やさと温泉ゆりの郷」は近県からも多くの来客があり、皆様に好評を得ています。

市内では多くの果樹が栽培され、年間をとおした果樹狩りを楽しむことができます。

最近では廃校になった木造平屋建ての小学校を活用して、「朝日里山学校」がオープンし、本格ピザづくり・そば打ち体験・農業体験・林業体験・ジャム作りなど地元の資源や食材を活用した様々な体験が行われています。



石岡市の農業について

石岡市は東京都心という大消費地に近い地理的条件に満たされながらも、温和な気候と平坦な農地に恵まれ、古くから地域の基幹産業として野菜、米、果実、花き、畜産などを主体とした農業が盛んです。

特に野菜、果実、花き等の少スペースの施設園芸を主軸とした高収益作物を中心に高品質及び周年における安定的な農業の展開が図られています。

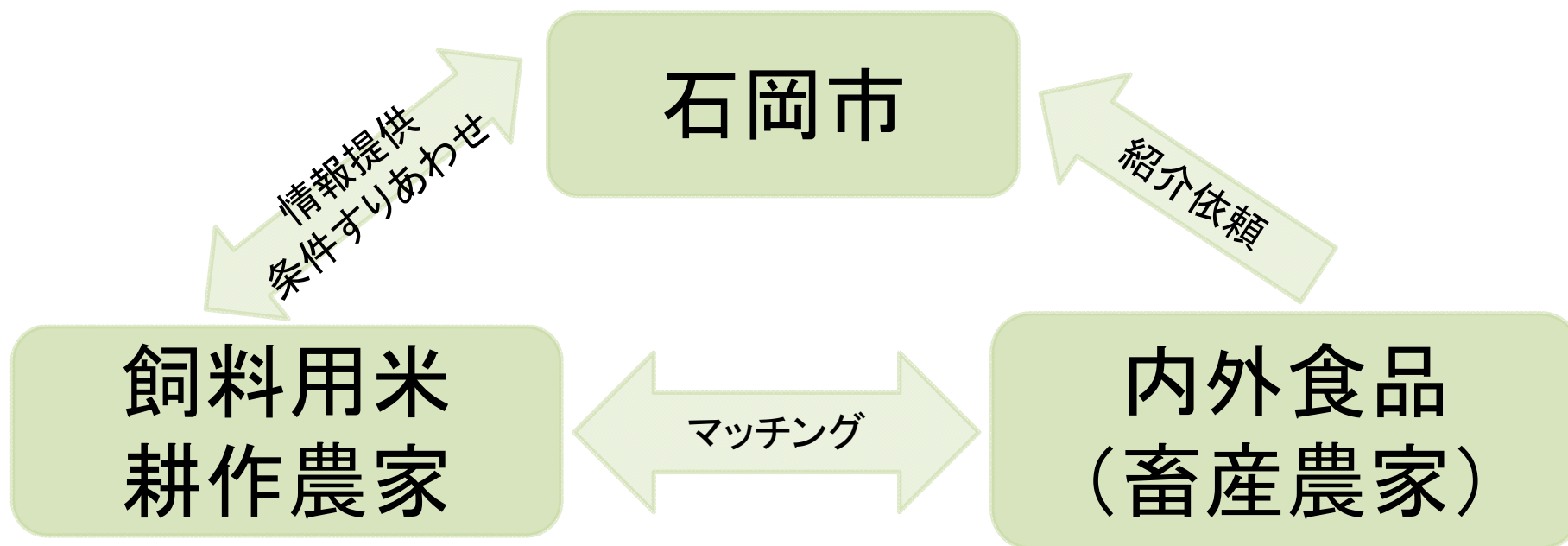
しかし、近年においては農家数・農家人口・経営耕地面積とも減少傾向にあり、農業粗産額は横ばい状態となっており、基幹的農業従事者の約6割が65歳以上の高齢者により占められている状況となっています。

また、大消費地に近いことから米の過剰生産の実態があり、消費者重視・市場重視の考え方に立って、需要に即応した高品質な転作作物を推奨していくことが課題となっています。



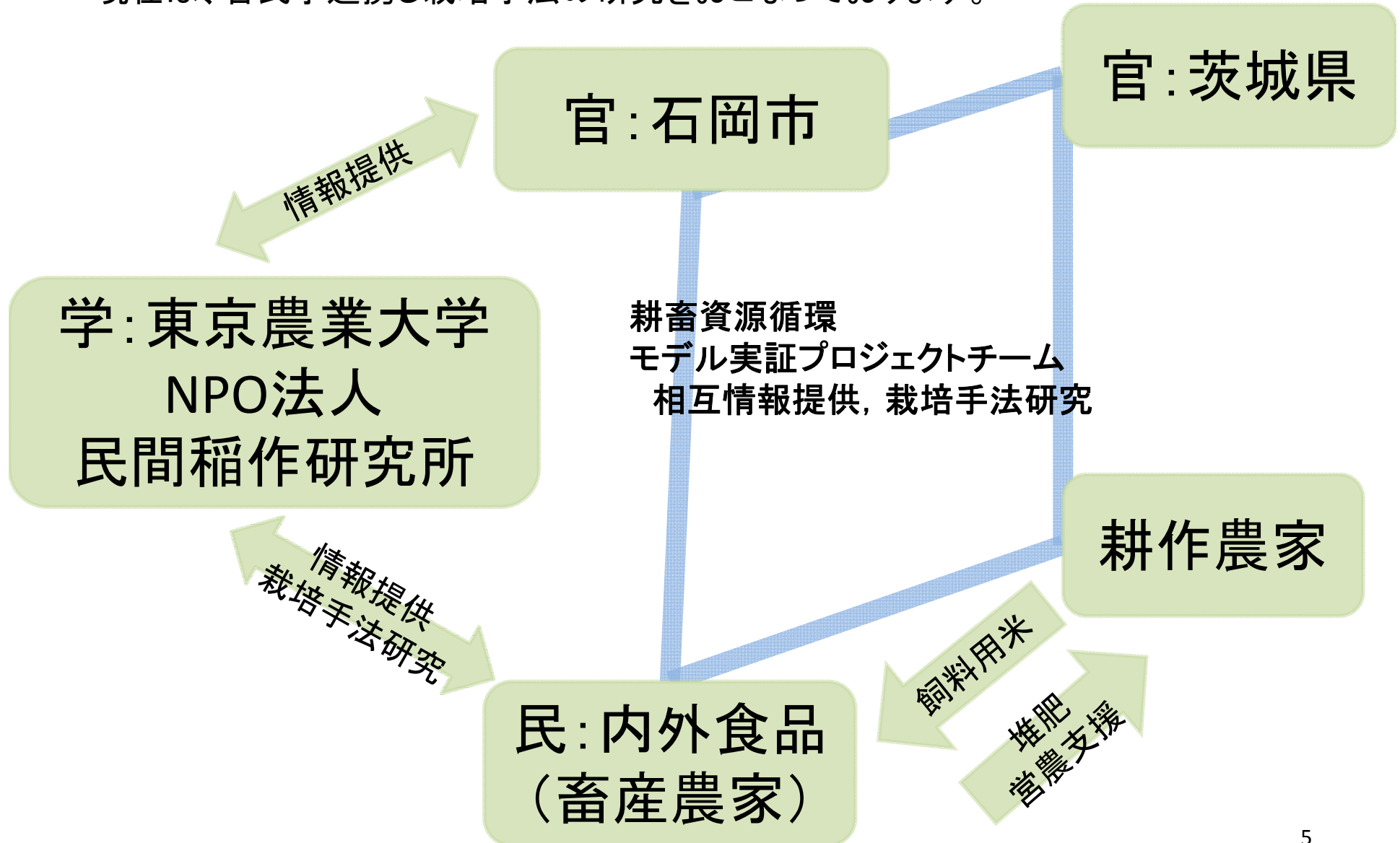
石岡市の飼料用米の取組の経緯

そこで湿田でも耕作できる転作作物として飼料用米に注目をしはじめていたところ、内外食品より有機栽培による飼料用米というニーズに答えられる生産農家を紹介できないかという依頼を受け、市内の農家を紹介し平成21年より、実需者である内外食品さんと連携して取り組んできました。



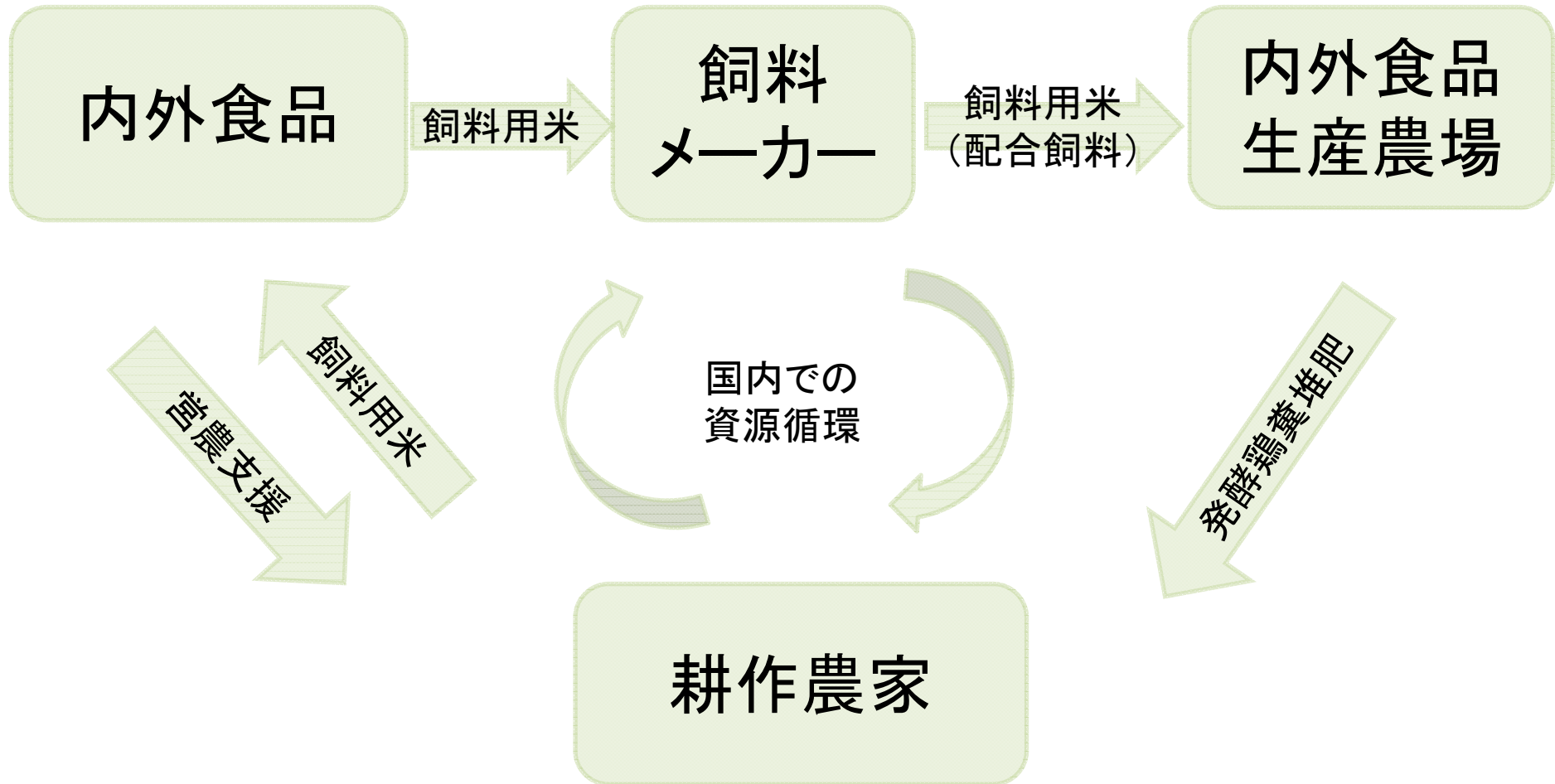
石岡市の飼料用米の取組について

現在は、官民学連携し栽培手法の研究をおこなっております。



耕畜連携詳細

耕畜連携の詳細は以下のようになっております。



収量当り助成制度の創設

飼料用米の問題点：農業者戸別所得補償制度に関連する交付金は・・・

水田活用交付金（8万円／10a）

茨城県産地資金（5千円／10a）

であり、面積当りの交付制度となっており、基本的な営農を行っていれば収量は無視されて交付対象となる制度となっています。

よって、耕作農家の営農努力が反映されていないことから、より意欲的な農家に対するインセンティブを確保するために畑作物の交付金と同様に収量当りの助成制度を創設しました。



収量当り助成制度の内容

助成単価: 15円/1kg

(1俵当り 900円 単収600kg換算で10a当り9,000円)

助成要件

飼料用米について専用品種を導入し以下のいずれか1つの取組を行うこと。

①多収実績

石岡市の基準単収(作況指数補正込み)以上の単収実績をあげること。

例) H24基準単収515kg × 作況指数(102) ÷ 100 = 525.3kg

②低コストへの取組

栽培手法の確立していない飼料米の耕作に当り、以下の低コストの取組のうち、いずれかを行うこと

- ・直播栽培
- ・疎植栽培(株間22cm以上)

